

オリーブの樹

第127号

2015年1月11日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 2015年 今年も共に！ 重信房子
- P 4 11月12月の歌 重信房子
- P 5 独居より 重信房子
- P14 読んだ本 重信房子
- P17 伊達判決が出て米軍駐留は
憲法9条違反という事で無罪となった 土屋源太郎

重信房子さんを支える会

2015年今年も共に!

一月元旦日誌より

元旦、新年を迎えています。謹んで新年のご挨拶申し上げます。何よりも感謝と連帯を伝えます。
 年改まる0時5秒前、窓を開けると暗闇から新鮮な2015年のオゾンがどっと私を包みます。見上げる南の中天に大きな星が一つ。星を見つめながら、遠くに居る仲間たち、闘い続けている友人たち、近くに居る友人や家族たちにありがとう! 生きて健康で良い年を過ごして、また来年会おう! と心で叫びました。そして小声でインターナショナル。ちっとも寒くありませんでした。

朝は青空が広がり東南には初日の出。何と美しい……と思っていたら、昼前には元旦を寿ぐように粉雪が舞い始めました。頭の中にレディオロメンの「粉雪」、あの好きな歌が鳴り響きます。朝おせち料理1パック受け取り、昼食には餅2切れも出て正月です。

去年の「年頭エアインタビュー」では2014年が「人権」「民権」の危機の年、それらが“合法的装い”を持って進むことが気になると述べましたが、あちこちで権力を握った者たちの暴挙が続きました(含む日本)。

ユニセフ(国連児童基金)は、「2014年は、子どもたちにとって破滅的な年となった」と12月に発表しました。世界で2億3千万人の子どもたちが紛争下の国と地域で暮らしているとのこと。かつて私たちの闘い、生活の場であった中東の状況は、悪化の一途をたどっています。

昨年は「パレスチナ連帯年」と国連が定めながら、イスラエル政府と軍によるガザ虐殺破壊が国際社会と世論に挑戦する如く激しさを増しました。ガザの方を越す負傷者や1万8千の破壊された住居を失った10万8千人のホームレスの人々への保障や再建は遅れる一方で、12月にはイスラエル軍の再びのガザ攻撃で、パレスチナ人が死傷しています。西岸地区でも同様の弾圧下にあり、「世界人権デー」にデモに参加したパレスチナ自治政府高官も殴り殺されました。エルサレムではパレスチナの聖地、ハラムデルシャリーフをユダヤの聖地に奪おうとするユダヤ人右派の挑発に対し、抵抗するパレスチナ人が殺されたり、拘束されたりしています。

「民族浄化によってしか、イスラエルを維持できないシオニズムは、末期症状の危機感で暴力的です。「イスラエルがユダヤ人を代表している」という幻想は、シオニズムによって自ら正体を明かし始めているようです。ネタニヤフ首相は多民族国家イスラエルを「イスラエルはユダヤ人国家」と定義づける法案を国会に提出し、身内の大統領、法相の反対やピースナウなどのデモを引き起こしました。仏や北欧英国など「パレスチナ国家承認」の動きは歴史の趨勢です。12月の国連総会では、イスラエルの核兵器放棄による「中東非核地帯」を求める決議が賛成161、反対5、棄権18カ国で可決されました(日本は賛成)。

イスラエル政府の国際法無視を正さない限り、中東の平和は実現できません。イスラエル建国、パレスチナ占領と戦争政策がまわりの国々の第二次大戦後の正常な独立国家作りを妨げてきました。「軍事国家化」戦争対峙を強いられた中東の歴史を作り出したのです。「イスラム国」の出現も米国の親イスラエル中東政策の不正、ことにブッシュ政権のイラク侵略によって、中東の軍事・政治・宗教バランスが暴力で破壊されたために起こったことです。米欧がこぞつづぶそうとした「アラブ民族主義」のイラク、シリア、リビアなどは、世俗的政権として、しぶしぶであれ国際社



2015年元旦お餅料理

会に協調してきました。ブッシュの暴力に基づく戦略は、ネオコンらによる「イスラエルの安定とイスラエルによる中東支配」のための戦略の一部だったのは、すでに明らかにされています。イラクとシリアの強権政権の「民主化」を狙っていて、サダム・フセインをまず破壊していきました。

強権体制の政権はイスラエルと対峙して来、権力維持のために独裁化していたのは事実です。中東では中間層が十分形成されておらず、貧しい都市の下層や農民、部族社会の族長などを誰が掌握するかが権力の安定基盤となっていました。独裁政権の「社会主義政策」はそうした層の生存を保障し、抱き込み、あるいは反対派を抑圧してきた歴史です。

それが暴力的に破壊されれば、米欧を憎み、宗教的・部族的紐帯が命綱です。「イスラム国」がその意味で「頼れる」存在である限り力を増すでしょう。外からの介入が宗派戦争に火をつけてしまった以上、住民たちは命綱に頼らざるを得ないからです。でも、暴力支配は抑圧を生み、分裂と反抗を必然化させると思います。米欧のイスラム教徒への差別や排斥から、「イスラム国」に参加したなど、外部からの人々と地元の人々は、暴力が介在している限り共存できないでしょう。「イスラム国」がイスラムの平安に基づく非暴力的な秩序を持ち得たら、グローバルなイスラム世界を体現するかも知れませんが、その反対に進んでいます。また、自分たちの責任も反省もなく、再び暴力をくり返す米・サウジなどの攻撃は、益々戦場を中東アフリカ米欧に拡大させそうです。住民は今年も犠牲を更に強いられそうです。

世界の秩序は、戦後70年を経て、崩れはじめています。それは、「強国」がエゴの上に不寛容で従属を強いてきた結果です。どの国も、どの集団も「グローバル」をかつてより意識化し、自己権力の強化、軍事化していくトレンドにあります。

日本もその脈絡の中にあって、安倍政権は「強国」の真似をして進みはじめました。かつて「9条平和外交」の中で「棚上げ」してきた領土問題をことさら持ち出して、排外主義を煽りつづけています。「アベノミクス」の幻想を御用メディア、御用学者を駆使して粉飾し「集団的自衛権だ」「秘密保護法だ」「選挙だ」と、やりたい放題の去年でした。

日本こそ憲法に立って非戦の世界秩序へと貢献しようというのに……! 「アベノミクス」の正体が割れなくても「オリンピック」で引っ張るつもりでしょう。昨日の紅白歌合戦でHKT48やAKB48などを聴きながら、マララさんを思いました。同世代、同時代を生きているのに、何という違い……幼さ。そして、またAKB48のような安倍首相とマララさんのような国際社会がダブって見えました。安倍首相の「慰安婦問題」も、内弁慶的論理が通用しないことを知らされるでしょう。

「秘密法」だって、「集団的自衛権」だって、「再稼働」だって、「辺野古」だって、これからの2015年です。「改憲シフト」に対して、逆包囲シフトだってこれからです。安保理事国に立候補し、大国強国として振舞いたい安倍政権。「ヘイトスピーチ」に寛容な安倍政権。「情報に乗せられる時代」だということをおきたい2015年です。国連の日本への「ヘイトスピーチ」への勧告が最高裁の「人権差別主義」の裁定を促したように、世界の「民権」「人権」を闘う人たちと共に、2015年、助け合いながら、日本の揺らぐ民権・人権を、少なくとも欧州の水準に近づける年としたい。死刑制度もその一つです。そして「沖縄」や「脱原発」。テント村の砦の攻防と民権の保塁を築く闘いが続く2015年です。

共に闘いたい!
 気づいたら雪は止んで積もりませんでした。今、嬉しい賀状やお便りをたくさん頂きました。一枚一枚に友人たちとの出会いの心が浮かびます。遮られた獄にいて、こうしたお便りがたちまち私を刺戟し、喜ばせてくれます。みんなが友だちでいてくれてありがとう! 『房子さんに会えるまでがんばろう』が、私のまわりの合言葉です」と、友人の言葉に私も励まされています。いい気になり過ぎないように、と戒めつつ。

戦後70年の今年、9月戦後生まれの私も70歳の新年、みんなに感謝し、千切れるほど手を振って、元旦の挨拶とします。

重信 房子

重信 房子

燃える秋めぐり巡りて山寺へ経哲草稿学びし宿坊

コスモスの揺れる向こうにアジトあり逮捕逃れし友の居た秋

「真つ赤な秋」囚徒のコーラス響く獄窓の外にも紅葉黄葉

チエロの音のサンサンスの白鳥にしきりに浮かぶ逝きし友野顔

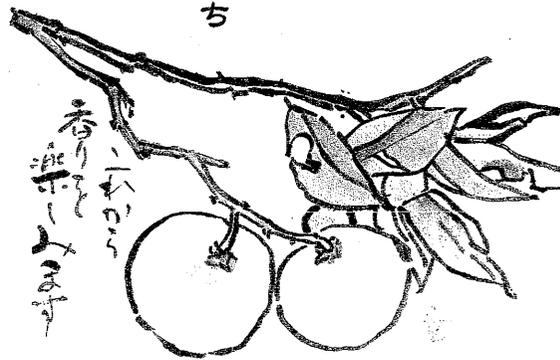
追憶は諸刃の如く鋭くて悲しみ喜びどちらも胸刺す

「異議無し」とスクリーンに向けて叫びたり唐獅子牡丹を觀し革命家たち

梢には取り残し置く熟柿光るハモニカ上手の父の音聴こゆ

過去は一瞬未来はゆっくり鉛の如く獄の時計は黙して回る

クラシンを夜空に放ち戦士らはハッピーニューイヤー勝利を誓う



独居より 11月13日~2015年1月5日

衆議院解散は沖縄無視と憲法違反の集団的自衛権などから目をそらすため

重信 房子

連帯を尽くしたと思います。これは沖縄住民の切望に応えざるをえなかったのでしょうか。本土も見習えないのか……と思いつつベッドへ。

11月17日 快晴続きでうれしい。

新聞では沖縄知事選の記事。96年に日米政府が「普天間返還合意」以降5回の知事選で「辺野古移転反対」を掲げる候補の勝利は初めてとのこと。本土側はどのように受け止めるのかと本日のTV番組欄を見ると、朝の番組で「沖縄知事選」と書かれていたのはNHKだけ。え?! 錦織のテニスの話ばかり……。番組内容をTV欄に書き込むメインポイントに「沖縄知事選」は入らないの?! 多分流さない訳ないけど、大きなニュースでないのか? TVが大事なことを掘り下げて興味深く伝える役割をしない見本のような扱い。どこかの一つの県の知事選くらいの位置づけのはずないと思うけど……。

自民党は負けたとたんにすでに「移転は決まっている過去の話」として傷口を小さくしようと必死。それにやっぱり消費税10%を先延ばしにして「その信を問う」という口実で、衆議院解散で沖縄無視。信を問われるべきは憲法違反の集団的自衛権など他のことでしょう。「米軍基地問題」「砂川事件伊達判決」に対抗してウルトラCの「統治行為論」を編みだして以来、憲法が最高法規(憲法98条)とは有名無実。米国の意向、日米安保の優先によって「統治行為論」の最高裁判決で米軍基地憲法違反判決も告訴を封印してしまったのです。こうした構造は「冷戦期」以降破綻しているというのに。

「米軍基地問題」と「原発問題」は根源的な国を正す闘いです。沖縄はこれからも苦難が続きます。そして「本土」は安倍政権を倒すための政党にも住民にも準備が未了です。それを狙っての衆議院解散なのですが。

デジカメ歌人元気ですね。“立冬”のお便りありがとうございます。もう冬がそちらにも来てしまったようですね。「空は秋が満ちているような透明な青が広がっている」のに、“冬空を突き抜けて咲くアステカが舞い踊るような皇帝ダリア”。そうです、前に送って下さった

11月13日 久しぶりに快晴のグラウンドへ。芝は枯芝と緑の芝がまだ半々位。タンポポが一株黄色い花を咲かせ、赤トンボも一匹見つけました。低く飛んでいます。気持ちの良い冷たい空気。

今パレスチナではエルサレムの聖地ハラム・シャリーフにユダヤ教右派シオニストが挑発と侵入を繰り返しているとのニュースに、あの2000年の第二次インティファダのことを考えながらトラックを歩きました。シャロンが武装した手下を引き連れて、同じようにパレスチナの聖地を軍靴で蹂躪したことからインティファダがはじまったのです。今ざりざりのところでパレスチナの住民は抗議し、治安部隊と衝突を余儀なくされています。芝生に座って大地に耳を当ててパレスチナの音を聞いています。かつてベカー高原に耳を当てて日本の声を聞いたように。

午後は茶道。香りが漂い一茎の白ナデシコが活けられていて、お点前を頂きました。

11月14日 『選抜』を昨日、『金曜日』を今日受け取りました。また『日本人の日本人によるアメリカ人のための心理学』矢谷さんの本も受け取りました。感謝。『金曜日』には「よど号」の様子がよく描かれています。すごい厚遇の中ですごしていたのね……、と自分たちのアラブ時代を思い返しつつ読んでいます。矢谷さんの本も、とても興味深い内容です。ゆっくり読みます。

週末は沖縄知事選投票日です。安倍政権の言い草の数え上げたらきりがない厚顔なやり口に「ノー」を突きつけてほしい。その勢い、沖縄の切実な心に支えられての日本本土の選挙にも少しでも良い影響を……! と願うばかりです。沖縄に頼るわけではないとしても。

11月16日 夜8時~9時の落語のラジオ番組の中のスポットニュースで「沖縄知事選、辺野古移転反対を訴えた翁長雄志氏が当選」と伝えています。獄は9時から就寝でラジオも切れますが、沖縄になりふり構わぬバラ撒きで仲井真を応援してきた自民党に「ノー!」を訴えた沖縄の人々の心が勝利して熱い気持ちです。「オール沖縄」で翁長氏を支援した各政党もよく

オリーブの樹 第127号

皇帝ダリアの写真は“冬空を突き抜けて咲く”がびつたりの花にみとれました。そちらも御自愛の程!

11月18日 今日はコーラス。シューベルトの子守唄にアクセントをつけながら歌うのを習い、「まっかな秋」を大声で歌い、「花は咲く」は東北の被災地もまた獄中からの環境も重ねて歌いあつという間の一時間。歌うと寒さがどこかに行ってしまう。

『救援』が届き「テロリスト指定・資産凍結法」を10月10日に閣議決定し、国会に上程したことが大きく出ていて、その概要を知りました。国家公務員が恣意的に指定すれば、市民運動やラジカルな政治活動にも国家弾圧が正当化される構造です。政権に反対する人・団体に対して「反テロ」の名で兵糧攻め孤立させ何でもあり。「これは治安警察法・治安維持法・破防法・組織的犯罪処罰法などの弾圧立法の枠組みを大胆に突き破った究極の治安立法と言ってもよい。」とのこと。身近に戦争準備があるようです。

今日は思いがけず旧友のNさんからの郵便。まあびっくりして、うれしく読みました。万起子さんのお便りでもNさんと一緒に少女のころ(!) ヴァイオリンを習っていたと知らせてくれてへー! と思っていたのです。その万起子さんが西浦婦人でびっくりしたのですね! 10月5日の西浦クンの通夜にも行って来てありがとうございます。なんだか同志社時代がなつかしいですね。あのころの仲間みな元気? S介さんは若々しいまま秋の円山公園の反戦の集いにも参加していました。

11月19日 今日は一ヵ月前に続いて聴力テストを行い、その上で午後診察。一ヵ月前と同じで、特に急速な変化はないと結果を伝えてくれました。聴き返す事が多くなったことを伝え、マッサージや薬で機能回復はできないのか尋ねましたが、それは「よく鼻をかみなさい」、それがとりあえず最良の方法とのこと。何か他の病気の関連ではないことが分かりました。

庭の銀杏の樹はもうすぐ黄色に変わりそうです。パレスチナはエルサレムの聖地へのユダヤ右派の侵入や弾圧に、各地で命と引き換えに強大な敵に反撃を行っています。18日シナゴグを2人のパレスチナ人が襲撃し、射殺されたとのニュース。米国籍、英国籍をもつイスラエル人4人が攻撃によって殺されたとのこと。イスラエルがつくり出している原因は問われず、パレスチナ人の命を賭した闘いが「テロ」と宣

伝されるのでしょう。ぎりぎりの悲しい命がけの占領に対する闘い。その小さな力のみが非難される世界であつていい訳がないのです。

11月20日 今日は生まれて初めての「始末書」を書きました! 広辞苑が手から滑り落ちてごみ箱の縁10センチ位壊してしまいました。それで書いたのです! 幸い接着剤で修理してくれて元通り。刑務所では壊れた備品は使わないのが基本とのこと。冷汗!

「オリーブの樹」126号受けとりました。大好きな吾亦紅と撫子の表紙がとってもいいですね。カラーでないのが残念。歌も選んで下さってありがとうございます。今回の歌も、早川さんの文も西浦さんの死の忘れられぬ想いにあふれた号になりました。早川さんの「西浦隆男さんの逝去を悼む」の文が心に沁みます。彼の辛かった幼年少年時代のこと、その中で学生運動を経てどんどん根っこ彼の優しさの涙もろい本当の彼と出会ったこと、とっても納得でき涙ぐみつつ読みました。

(嫌いなタイプの「ゴリ官」印象も「80年“愛”を知って変わった」という人もいた) でもそこ、涙もろくて優しいところは早川さんもそうでしょう?! 感激して涙ぐむのは早川さんと似ています。これからゆっくり「オリーブの樹」味わいつつ読みます。ありがとうございます!

11月21日 今日は旧暦の小雪。八王子はとても寒くなりました。

昨日受け取った「オリーブの樹」、じっくり読み返し、あれこれ考えていたら、夕食前に面会の知らせ。メイが来てくれました。面会室でお互いに、同時に「元気?!」とニコニコ。多忙なリサーチの合間をぬって来てくれました。今回の仕事のこと、健康のこと、すぐに30分です。健康で元気よく過ごしている様子が分かり嬉しいです。「来週出発前に時間取れたらまた来る!」と、あわただしく分かれまました。本当に30分は短い!と思うひと時でした。

由井さん、「皇帝ダリアとエンジェルトランペットは、日本の秋にふさわしくない」と、近所の花を見つのお便り。「日本の秋」には懐かしさがこみあげますが、そういえば、この花々にはそういう境遇は背負っていないですね。「オリーブ」の表紙の歌のこと、あれから再会を果たし、お互いに少し歳をとりましたね。元気ですか? 体調のことは書いてないけど。楽しんでください!

蒲池さん、11月の京都は感動的な矢谷さんの講演

や人々との出会い、きっと若々しい旧友たちとの再会は、力を得たことでしょう。元気でね。

NO NUKES VOICE NO. 2 受け取りました。行動する人々の声がいろいろ載っている本です。ありがとうございます。経産省前「テントひろば」に、10月12日は右翼がテント破壊襲撃したとのこと、その様子も声明も載っています。

CHさん“沖縄の知事選がぼくたちにくれた大きな勇気と希望”の一首。それを今度の衆院選と来春の統一地方選へと、「沖縄知事選勝利という大きいプレゼントをぼくたちは両手一杯に受け取ろう。一人ひとりが持つ行動力一つに!」と訴えています。

11月22日 新聞では、「衆院解散・来月14日投票」の一面記事。安倍の独断暴走に何としてもNO! と選挙で示したいものです。民主党のかつてのひどい政権運営、さらにひどい安倍の民意無視のやり方に庶民は投票をネグレクトしてしまうのでは……。それもまた安倍政権からの突然解散の思惑のうちでしょう。なんとしても投票し、「ノー」と示して欲しいです。

11月25日 連休明けの寒い雨。

宮崎先生は安曇野からアルプスを背景とするみごとなたわわな柿の木の写真を送っていただきました。先生も「選挙で野党のだからしなさが歯がゆい思いです」とあります。“卒寿迎え風樹の嘆き今ぞ知る”の一句をいただきました。

11月26日 昨日よりも雨と寒さが本格化して、冬仕度にカイロ。昨夜は冷えた足下にカイロを当ててなかったのも、もう小さなしもやけにやられてしまいました。熱中して読んだり書いたりしていると、足下の感覚無くて、カイロで防寒するのを忘れてしまったのです。抗癌剤後遺症で、末梢神経の感度がまだ鈍いためです。

午後主治医の診察。CVポートフラッシュをし、体調を確認しました。冬になって少し血圧は高くなりました。

資料や本などありがとうございます。「革命バカー代駐車場日記」(塩見孝也著)も届きました。

Mさんは、27日梅田茶屋町ロットでの「国定忠治一人芝居&トークライブの未来を語る」出演のために準備に緊張しつつ張り切っている様子。奈良での「さようなら原発なら県ネット」3年目、広瀬隆さんの講演や未来の地方選への仲間の立候補などの様子を伝え



てくれました。衆院選から統一地方選へと友人たちは、沖縄の勝利を活かそうとがんばっている様子が分かります。“沖縄の知事選勝利を祝うデモやつと京都の友知らせ来る”の一首が添えられています。

また、旧友から『通販生活』ありがとうございます。今号は「集団的自衛権行使反対」です。

12月6日、土曜会主催の明大土屋さんを支援60年の集いに連帯を送ります!

11月27日 久々に室内運動から屋外へ。連休と雨でベランダにもグラウンドにも出られずでした。建物から出ると、路地の楓がみごとに真赤です。ピラカンサも真赤な実をつけ、空は青いし思わず深呼吸。ラジオ体操も気持ちよく終って、さあ走ろう! と思ったところで「集合!」の号令。他の使用予定があるとかで階上のベランダに戻って運動を続けるとのこと。ほんの短い5-6分の外の空気でした。

午後はコンサート観賞。早稲田桜子さんら6人の女性たちの演奏です。バイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバス、ピアノ、みな若く著名な楽団のメンバーとか。それに藤原歌劇団のソプラノ歌手、小林厚子さんを加えた6人の競演合奏です。モーツァルト、バッハ、シューベルト、モンティ、マリアカラスの11曲です。蝶々夫人の「ある晴れた日に」の講堂を震わすようなソプラノの声量には、それを更に豪華にひきたてる生演奏に拍手鳴りやまずです。動物の謝肉祭から「象」をコントラバスで「白鳥」をチェロで弾いてくれました。

このサンサーンスの「白鳥」のチェロに、西浦クンを思い出してしまい、しみりとしてしまいました。モンティの「チャールダッシュ」は桜子さんのバイオリンを中心に合奏。これもすばらしい。また「鶴」も「虹の彼方へ」も、昔よく聴いた歌をソプラノと合奏

で楽しみ、あつというまの1時間。若い女性たちのボランティア楽団にみな手が痛くなる程拍手をくり返していました。

11月30日 11月尽。寒さが増す八王子の週末。明日からもう師走なのですね。衆院選挙の党首論戦の記事になんだか白けるのは私ばかりではないでしょう。自己中、自画自賛で国民の声は聴かず、強権の安倍首相の「勝ち」は定まっているのですから。大企業、大マスコミ、金持ち支配層が、あの手この手で、安倍で経済が上向いているなどと洗脳行為を繰り返している以上、「改憲」をねらう安倍を許してしまうのでしょうか。それでも反対の意思表示を！と願わずにはいられません。

夕方看護師より明朝の採血検査を告げられました。今年いっぱい八王子に居られるけれどその先が心配……。厳冬はどこに行っても同じでしょうし、体調管理の行き届いたこの施設は、私の「癌体質」にはとても助かっていますから。

12月1日 雨の暗い師走の朔日となりました。午前中に転房ひっこし。南向きで窓も大きくていい場所です。窓の外は広くグラウンドが見渡せます。残り少ない黄葉紅葉が雨にけぶっていて冬景色です。

デジカメ歌人の「小雪」“忘れもの取りに戻るには遠すぎる冬の夕陽の赤に佇む”“銃剣を捨てたる我ら他の国の兵らを殺す武器我はもたず”を選びました。大きなヒトデと蜂の遺骸の写真。「独りよがりの静物画」とのこと。もう雪がきそうですね。

宮崎先生の句と絵、毎回楽しみにしています。魚の絵は彫ったものですか？ 版画見たいです。レストランもいいですね。「翠濃芝公園の遊歩道」先生の体調は良いようですね。寒さにはお気をつけて下さい。

12月2日 衆議院選公示。同じ一面には、「ムーディズ日本国債一段階格下げ」の記事。それはそうでしょう。「異次元緩和」で「出口戦略」もなく、借金が膨大に増える日本。今以降は経済が悪化していくし、まだ野党が態勢をとれず、圧勝でき改憲できるとの読みからの安倍独断解散。もっともらしい理由は、いつもの軽薄な一方的「正論」です。きっと友人たちもうんざりしつつ「そう言われてられないぞ」と、安倍批判票を掘り起こしていることでしょう。こんな時は、地に足をしっかりつけて中期戦略を見据えないと、と。

今日は朝から指名医が診察に診えました。旧い予備

の義歯を調整してくれて「当面これを装着してください。新しい方は、義歯を技工士に加工修正してもらいます」とおっしゃって、また上顎と下顎の歯全体の型取りをしました。二週間ほどでできるとのことでした。

資料やお便りなども頂きました。パレスチナは激しい「嫌がらせ」「殺人」「子供の逮捕・暴行」など、イスラエル占領軍と入植者によって起こされ、危機が更に深まっているとのこと。「反撃した実行者のパレスチナ人の家は破壊され、家族全員が拘束・迫害・追放などの目に遭っています」と現地の様子。「集団的懲罰」は近代法が禁じていてもイスラエルは無視し続けています。

資料の中で「ハフイントン・ポスト」にアップされたペーター・コーヘン論文を知りました。彼はオランダの社会学者でユダヤ人で「イスラエル国家の解体」を主張しています。板垣雄三先生がハフポスト日本語版で紹介すること。「終わることのないパレスチナ紛争の根因、それをどう正すか」という論説。中東和平やパレスチナ和解の二国家方式・一国家方式などを斥けた提案とのこと。

“中東パレスチナ紛争の本質は、民族・宗教紛争ではなく、植民地主義の先住民駆逐・土地略奪であって、問題解決は欧米が創り出した植民国家イスラエルの解体において他にない。犠牲者とされたパレスチナ人に遅まきながら正当な権利回復と補償が行われて、パレスチナ人の国が建設されるべきであり、他方、立ち退くべき植民者のユダヤ人にも彼らやその父祖たちを棄民した欧米諸国が先頭に立って補償を与え、再移住を受け入れるイニシアティブをとるべき。国連を中心に世界全体が協力しあって、力に驕るイスラエルに対しては経済制裁の圧力をかけ、反面、ユダヤ入植者の立ち退き計画では、かつてパレスチナ人がなめたナクバの再現を回避する。こんな道筋で紛争の公正かつ賢明な平和的解決方式を構築すべきだ。”

とペーターコーヘンは主張しています。

1942年、ナチ占領下のオランダに生まれたユダヤ人の彼の発言は、もっとも原則的です。ユダヤ人以外の人が同じことを述べたら、「反ユダヤ主義!」「ナチ!」と、シオニズムは糾弾するでしょう。ユダヤ人の立場や意見、きっと「イスラエルは何もユダヤ人を代表していない」ということを多くの人に知らしめるでしょう。原則的な意見が決して通らないのは、米政府の政策にあります。世界はアメリカに歪められて久しい。まっすぐに植民地主義の問題をとらえている点でも四方田先生やパルパース先生も共通した問題意

識です。「正義」や「良識」が抑圧され続けた混迷を中東にみる分、当たり前主張はパレスチナの人々の心に響くでしょう。

12月4日 八王子の気温は、最高9度、最低3度です。グラウンドに出ると、曇り空のため寒い。落葉も終わり、南天桐の実も、もう鳥が食べつくし、ピラカンサの赤も鳥が落ちたのか、ほとんどなくなっています。

新聞の調査で「自民300議席うかがう勢い」「公明と合わせて3分の2以上か」などの選挙の行方につかりつつ、厳しい新年を思っています。万起さんありがとう。嵐のような風とのこと、ワンちゃん、ニアンちゃんと共に彼が居るような気持ちになったりきつと元気にしておられますね。いつかバイオリンを聴かせてね！資料ありがとうございます。

12月5日 新しい移った房は、窓が幅広く南向きなので、今日のような快晴は暖かです。外は寒いのに。どれも同じような房ですが、北向きは初めて八王子に来て入った房で、両手足しもやけがひどかった。それに較べ、南向きは何度か暖かい。カイロもその後使用許可になったせいも加わって、防寒は当初とは較べられません。

I子さんお元気ですね。写真付お便り感謝！「ソーダストリームイスラエルポイコット」の写真のようです。「11月12日から始まった“イスラエルポイコット”マラソンデモの或る日曜日の風景です。平日の夕方6時から、土、日は11時半から30分、大阪と京都のヨドバシカメラ前でアピール行動しています。(京都は時間ちがいます)43日間12月24日まで行われています。東エルサレムをはじめ、パレスチナ各地での闘いに連帯する気持ちでマラソン完走したいと思っています」と心強いお便り。SNSでこの様子パレスチナへ生で届けられないでしょうか？きっと苦難のパレスチナの人々にとって一つのアジアからの救いの姿・連帯は励ましです。ベツレヘムのパレスチナキリスト教徒たちに、イヴのプレゼントそしてスカイプでつながれたらいいのに！「電腦」の友よ！協力を！Iさんのこの一句もいいですね。“木枯しにパレスチナ旗は叫びたり”

森本さん、11月27日一人芝居は、娘たちと共同で楽しくやることができたのですね。それに、本も送って下さってありがとう。「借りぐらしのアリエッティ」5巻、これはスタジオジブリのアニメになった原

作とのこと。週末、読み始めます。フフフー！

今日は「フォーリンアフェアーズ」の米欧の“識者”の「イスラム国」や「ウクライナ問題」を読んでいるところ。解説ばかりして力に頼る道に突き進み、そのあり方に疑問を呈する国を批判している内容が主流みたいですね。

12月6日 八王子は7度～1度とのこと今日初めてストーブが朝入りしました。今朝は枯芝の上にうっすらと霜が広がっていました。でも快晴の青空と陽に、そんなに寒くは感じません。

今日は「土曜会」ですね。それから、土屋源太郎さんはじめ、明大学生運動60年を語る集いの日です。もう忘年会、今ごろ「祭」の店、満員で楽しんでいることでしょう。

12月8日 今日の冬晴れに布団干し。もともとふんわり布団ではないけれど。

今日はまた、主治医診察でした。12月1日の血液検査結果を伝えてくれました。腫瘍マーカーCEAは4.3で、5.0以下の正常値の範囲とのこと。CVポートのフラッシュもしました。体調は良好で、体温を測った上で、平熱を確認してインフルエンザの予防接種もしました。ここは東拘と違って採血を除いて、看護師ではなく医師が自分で注射をします。CVポートフラッシュもインフルエンザの注射も。

12月9日 こちら快晴ですが、氷点下です。「八王子は氷点下2.6度」とラジオで伝えていたほどです。朝は、グラウンドの芝に真っ白な霜とトラックには氷が張って、朝日に鏡のように光っています。窓の外には、冬景色が広がっています。

全国的に大雪で、徳島が雪深くなってしまったとか。こんな大雪だと、尚更安倍政権の党利党略選挙は腹立たしく、税金の無駄に憤っても、庶民は投票に出向いて「ノー」と投ずるしかない。塀の外から街宣車の連呼が聞こえます。

千夏さん、新著『芸能人の帽子』ありがとう。楽しみに読みます。

Nさん、メイの講演の様子伝えて下さってありがとうございます。盛況で、メイはとんぼ返りの短い滞在でしたね。主催者の計らいで、別室で話をできたとのこと。良いひと時だった様子が伝わります。

宮崎先生、12・8のことに触れておられます。「12月8日、開戦記念日！新聞はそれを全く取り上げぬ

73年も昔だからか！開戦責任、対米通告遅延責任も不問のまま。日本の将来は？」との憤懣やる方なさと哀しさ。無責任の連鎖の上に、知らないうちに開戦や責任当事者たちを美化する風潮しきりの日本。先生の今日の句は乾パンです。「平和なる今乾パンを味わいて」先生の軍隊生活の常備食でしたから。

12月10日 今日、特定秘密保護法施行日。

昨日、官邸前で反対する学生有志の会主催のデモに、千人の若者たちが意志表示したことも載っています。「知る権利制約する」と反対廃止を求める声が「日本ジャーナリスト会議」、民法労組、「映画人の会」など、様々な団体が声を上げ、また、各地で集会デモが行われているようです。

事情を知らない多数の市民は、知らないうちに「賛成」の如く扱われてしまっています。無関心、無反応は、決して賛成ではなく、争点隠しのムードの中で、問題視していないのでしょう。

もっと日常の中で、暮らしの中に危険が結びついていると知らせる多様な闘い、これからがまさに「特定秘密法」に対する闘いなのだと思います。

12月12日 この歯科の診察で午前中虫歯を治療してもらいました。「義歯の金具の掛かるところなので、歯の治療で形が変わりますよ。大丈夫ですか？」と言われて「来週指名医が来られると思うので微調整してもらえるので大丈夫です。」と私。ところが昼食になって嘔吐と痛くて嘔めない。食べないと大丈夫だったのですが……。ほんとに微妙なものだなあ……と実感。嘔まなくていいものを選んで食べています。昼はパンやヨーグルトサラダです。

巷は衆院選追い込みらしく、伝カカーが行き交いま



す。「選挙戦師走の町をポストイング」のCHさんの一旬に示されています。豊中社民の服部選挙事務所応援のボランティアポストイングの様子知らせてくれました。

宮崎先生はコンピューターでヤフオクに参戦中です。「ヤフオクで買い求めたる古切手」。沖縄は翁長知事勝利に乗って、沖縄全小選挙区で打倒安倍の勢いが増している様子。勝つまで負ける現在を、次に勝てる布石として本土も闘い続けてほしい。

新聞にCIAの拷問、ブッシュ政権のもとで「テロ容疑者」に行った尋問に関する調査報告が出たこと、オバマ大統領は声明で「厳しい尋問手法は米国の価値観と合わず、世界における米国の地位に重大なダメージを与える」と批判したと載っています。米国は汚い手を使うのを常套手段としてきたし、オバマの批判にもかかわらず今も行われているはず。アフガンやイラクに施設をつくって拷問をくりかえしているばかりか、ソ連東欧崩壊後の90年代に東欧にもそういう施設がありました。今はどうなっているか知りませんが。

オバマがこうした手法を禁じた後も「民間会社」と形を変えて軍関係者が拷問商売をしていることは明らかです。CIAだって現場では「禁止」など守っていません。米国民はいつも騙されています。日本も「沖縄密約」や「原発」問題。他にもいっぱいあるでしょう。

12月14日 日本列島は上空寒波で雪らしい。八王子も最高6℃最低マイナス1℃、でも快晴です。今日は投票日、どうだったでしょうか。

12月15日 快晴でも最低気温はマイナス3℃と冷たい朝です。

ちょうど新聞が届きました。「自公大勝3分の2維持」の白抜き大見出し。共産党が躍進したこと、沖縄全小選挙区で安倍政権反対の意思を示したことが次への可能性でしょうか。「戦後最低の投票率」が一番大きな特徴だったでしょう。

民主党政権への落胆と憤りは消えず、安倍政権の独善に無力感となり「日本の政治なんて変わらない」と政治ニヒリズムが庶民の間に広がっているのでしょうか。

安倍政権にも、また国民の投票放棄にも日本の「民主主義」の危険を感じるのは私だけではないはず。「3・11」の驚きと意思表示する政治参加の重大さを気づいた人は多いのですから、負けは負けても次

の次に顕在化する若い世代の流れが確実に育っていると確信したい。きっとそういう人々も「非自民」へと奮闘したことでしょう。

安倍政権を取り巻く官僚やそのOBたちは民主党に政権を奪われたことを、ことごとく良く学び、あらゆる機会に「野党つぶし」を狙ってきました。そうした「ブレーン」によって自民党（電通、マスコミ、警察、検事OB）ら「知恵者」たちが全国の選挙を予測し、進言し、狙い通りに「改憲シフト」の3分の2以上勝ちを確信し、決行へ至ったように思います。

一方民主党はすべて中途半端で、企業の利益のため「原発輸出」や「再稼働」までやるといふ人が多く、貧しい人々「弱者云々」と言いつつ個々の議員のエゴがみえみえ。党としての政策はどれも不明で、海江田民主党には何の芯もまとまりもない。「自民の方がまし」と思われるのも仕方ない有様です。どちらも似たような政策だし。批判票は「自共対決」を一貫して主張した共産党が自前の財力をかけてほぼ沖縄以外の全小選挙区に候補者を立てて票を掘りおこしました。投票率が上がればもっと共産党が増えたかもしれません。社民党は共産党の勢いに票を奪われてしまった感がありました。

いずれにしても私自身は巷間の実情も知らず朝の新聞からの感想ですが、これからが闘いだという思いを深くしています。安倍政権は「国民投票勝利の改憲シフト」をあれこれ公然非公然に企てて来るのが目に見えています。権力の「だれか」しか知らない情報で、鳩山首相の「子ども手当」の巨費を「だれか」がマスコミにリークして足元をすくったように、そんなやり口が野党、沖縄つぶしに出て来ないでしょうか。謀略戦含めて。

デジカメ歌人「大雪」の便り。「この国が右に大きく舵を切ろうとも、反戦反差別の旗を降ろすまいと思っています」とあります。同感。そして更に回天の方途を見つきたいです。「冬深夜蒲団跳ね除け座すれば過去の不始末闇より聞こゆ」の一首を三首から選びました。私もそんな夜があります。

12月16日 今日はベランダに運動に出ると、雪がちらつき始めました。初雪です。ベランダの天井は金網なので、行きを楽しむ間もなく、屋根のある狭いところで運動をすることになりました。今日は寒いです。

午後、茶道の時間に姉の面会。指名医のことや家族の話。今日は世田谷のボロ市で、家のすぐそばでしたから、学校が終わると遅くまで、ボロ市を見て楽し

だ12月16日。その話をお互いにしそびれてしまいました。

面会后、すでに残り20分位の茶会に参加して今年最後のお手前を頂き、すぐまた自分で点てて、もう一杯と、おいしい抹茶を楽しみました。

資料や『選択』など受け取りました。お便り、パレスチナの厳しい様子伝えてくれています。PFLPは、もともと「国際連帯」を特性としてきましたが、米国の黒人差別抗議運動への連帯声明や、昔から関係深いアイルランドの組織との反植民地主義共同をH・Pにもアップしているようです。12月はPFLP創設記念ですが、今年は47周年、ラマツラで1000人以上の参加で行われたとのこと。ファタハとハマスの両勢力の狭間で昔とは較べられない小さな力量ではあるけれど、原則的な闘いは果敢に続いています。そんなレポートはとっても嬉しい。

今日の新聞で、衆院選の当選者数や得票数、確定投票率が出ています。比例区で見ると、投票率52.65%の33.1%が自民党、18.3%が民主党、15.7%が維新。公明は13.4%、共産は11.4%、社民は2.5%などです。全有権者から自民党の支持を考えると、独善と横暴を安倍政権に許すわけにはいきません。公明党と合わせても、全有権者の4分の1未満(24%)。しかも選択肢がない中での数値。まだまだ、今後安倍政権の政策は反対して変えさせられるのでは?!と思いつつも、「当選者改憲賛成派84%、自民96条、9条優先」の記事(朝日新聞と東大の共同調査)、自民政憲に呼応する維新や民主党など、議員と国民の「九条」に対する意志とギャップがありすぎ。地道な生活からの活動の声を反映させる政治の危機でしょうか。改憲策動が実質拡がりそうな新年です。でも、アベノミクスの格差や国際レベルでの国債評価やロシア欧州情勢など不安定が政権をゆさぶる年となるかもしれません。国会においては、日本共産党が「議員立法」を提出できる20議席以上を得たことに期待したい。何よりも、日本の立法府をよくする根本は選挙制度の見直しです。小選挙区制の死票、一票の地区格差、全部比例制にする方が有権者の民意が反映されるはず。

今日の八王子最高気温5度、寒い!

12月17日 今日は「クリスマス会」。カソリックカリタス教会の川村神父によるキリスト誕生の聖書朗読とお話し。キリストは西暦より6~7年前に生まれているとか、クリスマスはキリスト誕生日とした由来と

オリブの樹 第127号

か。(北政の太陽信仰の冬至から、それらの人々がキリスト教となり、祝い始めたとか。) 静かに「聖夜」をみんなて歌って第一部終了。

その後、第二部は、クリスマスコンサート。「小さな聖歌隊」の11人のシスターによる平和と神を讃える愛の歌8曲。「愛されるために君は生まれた」「いのち」「オーホーリーナイト」「ハレルヤ」など、清らかな歌声は心に響きます。アンコールは「花は咲く」。講堂には、クリスマスツリーが点滅し、コンサートはまたたくまに終わりました。その後、神父と「小さな聖歌隊」は、賛美歌を歌い、手に電池式ながらろうそくを持って、病棟を巡回し、行事に参加できない患者にも祈りをささげつつ進みます。この行事が終わると、ここ八王子も、もう年末休みがすぐ! と実感します。

12月18日 最低マイナス3℃。久しぶりにグラウンドに出てみると、霜柱がやっと溶けはじめて、トラックは水浸し。固い霜柱のところを踏んで、昔麦踏みしていた世田谷の近所のお百姓さんを思い出しました。4~5センチもあるみごとな霜柱。サクサクサクサク!

午後は、今年最後のコーラス。「クリスマス会」を兼ねて歌は「聖夜」「ジングルベル」「真っ赤なお鼻のトナカイ」それに年末なので、第九の「喜びの歌」と盛り沢山。ハンドベルも持って来られて「聖夜」と「第九」は各自が音階のハンドベルを担当して合奏。ラとソの音が多く、担当者が初めて参加した人に当たって、先生も苦労しつつ。私はレの音。最後はメロディになりました。

蒲池さん、紅葉の写真。「ピワの葉を焼酎漬けたので、毎日うがっています。これがよく効きます」とのこと。風邪予防に友人たちも試してみてください。

「情況11・12月号」土屋源太郎さんの「伊達判決」に関する文章、この闘いが過去の闘いではなく、今の闘い、これからの日本を正す重要な点が示されています。また、中東のこと。「イスラム国」やパレスチナ、「沖縄知事選報告」と共に、興味深いテーマが今号に載っています。

“霜柱サクサク踏み締め戦場の軍靴凍る友らを思う”

12月19日 今日是指名医歯科治療。作り直してきた義歯を微調整しつつ、装着できるようになりました。他の奥歯もチェックしてどう悪化しているか説明してもらい今年の歯科治療を終えました。

公三さん、由紀ちゃんハッピーバースディ!

12月20日 「STAP細胞作れず」の記事。記者会見に臨んだ相沢顧問発言。「今回の検証は科学のやり方ではない。犯罪者扱いには科学にあつてはならない」と。何か不思議。小保方さんが説明した方がいいのでは……?

今日は中山千夏著『芸能人の帽子』面白く読みました。(書評は15頁に)

12月22日 冬至! 私はこの日が好きです。これから一年が始まるスタートラインのように、この日からどんどん明るくなる気がするからです。今日は良い知らせもありました。また、夜はクリスマス用のローズとレッグ。毎年外注の美味しいもの。チキンですが。

12月23日 万起子さん辛く淋しい年末ですが、元気でいてください。町内会の餅つき、彼にお餅をお供えして、砂糖しょうゆ、おいしそう! 彼は磯辺巻きが好きだったのですね! 私もです。資料ありがとうございます!

12月24日 運動のベランダ。今日は寒い。みなラジオ体操の後は、隅の隅の当たるところで話しています。走ったり、ウォーキングは私ともう一人。「ローストレッグおいしかった!」「きのうビッグプリン」「今日はロールケーキだよ!」と、若い人は食べ物の話。

R子さんに送って頂いたコピーにびっくり。珍しい私の忘れていた一文。本に載っていたのですか? その文は竹中栄太郎さんから扇面を頂いたもので、返礼したものです。80年代に『太陽』に載っていたという「花と闘い」。芳さんがベーカーを往復していた折の80年代のものです。絵手紙素晴らしい! 動いている湯気や動くページや背中もみたいけど実感できます。いい絵手紙ですねえ……!

今年発信できるのは明日だけです。次は来年1月6日まで発信できません。みんなにメリークリスマス! どうぞ良い年を! お互いに健康でいきいき新年を共に!

12月25日 今年最後のグラウンド運動です。冷たい空気を押し分けて、トラックをゆっくり走ってみました。木々はもうすっかり裸でツツジとサツキの垣が濃く暗い緑。

今日はまた、主治医の最後の診察。CVポートのフラッシュも終わりました。

新聞では、「第3次安倍内閣発足」の記事。自分の

権力の安定のためだけに、600億とも、700億ともいわれる税金を費消し、選挙を制して得意の満面厚顔。今年から「改憲シフト」は国民の中に巧みに持ち込まれそうです。

Yさん、「土曜会報告」それに「土屋源太郎さんを支援する集い」のレポート感謝!(17頁に収録)「土曜会」脱原発で、柏崎刈葉や山形「おもいで館」など、ずっと関わっています。また、経産省テント裁判も、来年は厳しい局面を迎えそうですね。12月3日、テント裁判があり、休憩の後の再開後、裁判長が突然「次回で結審」と言って退場したとのこと。次回は2月に裁判。来年は強制執行の危機?! それに、テントの地代として、賃貸料を民事で億単位請求するらしいとのこと。脱原発運動つづです。三里塚の管制塔闘争の被害にも巨費の弁償を求めたのを思い出します。新年からは様々な弾圧攻勢に、立ち向かわざるを得ない年となりそうです。

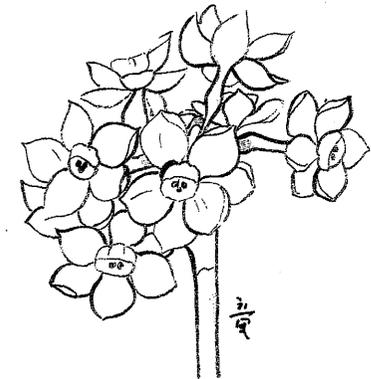
「土屋源太郎さんを支援する集い」50年代の学生運動から砂川闘争、学費闘争、その後のみんなの発言は興味深い。とくに土屋さんの語る学生運動は、是非もっと多くの人に知ってもらいたいな……と思いつつ読みました。

今日は今年最後の部屋検査。また、視察委員会からのアンケート用紙も配られました。視察委員会も多忙の人々の兼務のせい、情報の把握も形式的な質問が目立ちます。それ以上は、難しいかもしれません。

昨夜のクリスマスイブは、パレスチナ、ベツレヘムでは平和の切実な祈りが行われていることでしょう。毎年イスラームのパレスチナ人も一緒に世界遺産の生誕教会前で祝すパレスチナです。それなのに、イスラエルは「ガザ停戦」以降はじめて、ガザの攻撃によってパレスチナ住民を殺害しています。「ガザでは生きていることを毎日祝うの」というメイの言葉が浮かびます。

12月26日 今日は仕事納め。来年1月5日の仕事始めまでもう資料など受信物は受け取れません。今日ぎりぎりを受け取れたのはMさんの送ってくださったプリント資料、句集、石川達三の「生きている兵隊」などです。また、Uクンの送ってくれた御茶の水風景写真も受け取れました。御茶の水、なじみの喫茶店は消えても、駅、橋、山の上ホテルや金華公園と大枠がそのままなので、昔の行まいを実感します。

「アイヤーム・アハリ」クリスマス号でガザの様子を知ることができます。感謝。51日間のガザへのイ



スラエルの暴虐で、死者少なくとも2,131人(うち民間人は子ども501人、女性257人を含む

1,473人、武装勢力の構成員270人) 負傷者は子ども3,374人、女性2,088人、高齢者410人を含む1万1,100人だったと、パレスチナ保健省報告を載せています。障害を負った者は1,000人を超え、親を亡くしたパレスチナの子は1,500人。何と痛ましい数字。数字は一人ひとりの人生・血・命です。

12月30日 もう年の瀬。大掃除、といっても資料や書類を選り分けたり、丁寧に房内を掃除したり。今年最後の入浴も終わりました。Yさんのレポートを読み返しつつ、Kさんやみんなの発言に昔がよぎります。「二・二協定」のこと、生協の私も理事だった地域生協決定のこと、三木教授の素晴らしかったこと。そしてHさんの発言に、今この時期雪山で苦しんでいた遠山さんら「連赤」の人たちの姿を思い出さないわけにはいきません。25歳のままの遠山さんは、今でも語りかける仲間です。

12月31日 大晦日の空は青く清々しい。今年を振り返り、友人を癌や病院で喪ったり、悲しいことも多くあった一年だと思いました。また、「革命の子どもたち」などドキュメンタリー映画で旧友や友人、未知の方とも気持ちの通い合うこともあり。日誌や手紙に書かないいやなこともあるでしょうと察して励ましてくださる友人もいますが、楽しいこと嬉しいことに目を向けて生きるのが習性でもあり、その方が精神的にも健康のように思います。「能天気」かもしれないけれど。

みんなの励ましの中でよい年越しができます。感謝。来年は敗戦70年、戦争責任をしっかりと思い返す意味

ワープの巻 第127号

でも今年最後の読書。「生きている兵隊」(石川達三著) 戦前発禁のもの、当時の兵隊の有様に「角隠し」した今の日本人が重なります。

デジカメ歌人冬至の一首「風止みて霜おりの道息吸うと五臓六腑に冬がしみわたる」

CHさん「闘いは来年春の地方選集う仲間の目が輝いて」

宮崎先生「どっこいしょ蕎麦をたぐれば除夜の鐘」こちらもカップ麺の天ぷらそばで年越しです。どうぞ良いお年を!

1月5日 仕事始め。今日も青空。運動のため10日ぶりにベランダへ。みんなでお互いに挨拶。その後は料理のこと。「今年は元旦だけの二切れの餅!」とか。元旦が過ぎると、あつという間にいつもの日常に戻つ

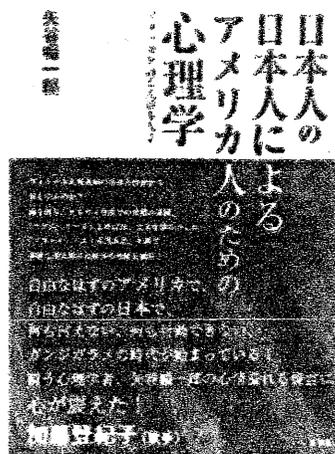
★読んだ本★

(「日誌」の中の読んだ本への記述を編集室が抜萃したものです)

『日本人の日本人によるアメリカ人のための心理学』(矢谷暢一郎著・鹿嶋社)を読み終えました。アメリカという違った角度の内部から提起されている60年代の総括教訓として興味深く読みました。

著者は、60年代後半、同志社大学在学中、学友会委員長、京都府学連委員長として、ベトナム反戦闘争をはじめとする当時の学生運動を担っていた人です。77年、渡米し、心理学を学び、アメリカの教壇に立ち続けて現在ニューヨーク州立大学の心理学教授です。著者は86年オランダの学会に参加した帰途、ケネディ

空港で突然逮捕されて、44日間拘留されました。そして「ブラックリスト抹消訴訟」を起こして、米国政府を訴え、全米に「自由と人権」「反差別」の抗議の声を上げさせた「ヤタニ・ケース」の当事者として、知る人ぞ知る人物です。



てしまいます。

賀状やお便り、ありがとうございます。資料などの受け取りは明日以降ですが、手紙など受け取っています。それぞれの賀状やお便りに心意気が込められていて、私も何かできることはないか……と考えつつ、60年代の記憶を記録していこうかと元旦から少し始めています。

雪のニュースを聞くと、「連赤」が思い返される季節です。

“正月に粉雪舞えば偲ぶる雪を褥に死に給ひし君”友人たちの想いを果たしきれず、今の日本を座して凝視するばかり。でも友人たち、未知の人々の闘いがある!と描く夢は大きいのです。夢を持ち続ける根性もまた、能力のうちでしょ?!と。みんなと共に誓う新年です。

重信 房子

この本の構成は、序章「アメリカ政府のブラックリスト」、第1章「アメリカ人学生と日本人心理学教授」、第2章「心理学における研究方法」、第3章「日本人の日本人によるアメリカ人のための心理学」、第4章「ヒロシマからフクシマへ」、第5章「アメリカの日本人心理学者」となっています。

内容としては、いわば60年代ベトナム反戦闘争を日本で闘った世代のアメリカ社会における闘争史とも言えると思います。それは、二つに意味で、私はそう実感しつつ読みました。一つは、日本におけるベトナム反戦を中心とする学生運動に対する権力による報復、社会的制裁が企てられたことに抗して、強いられつつ、闘い続け、アメリカ社会に差別や人権を訴えて勝ち取ってきた生き様です。「権力による」と私が記すのは、アメリカ政府のみならず、ブラックリストを提供したであろう日本政府をも指しています。そして、もう一つは、60年代当時の学生運動を形成していた知性や政治思想、それは未熟さを含むものだったかもしれないが、それを基盤としながら、一人尾日本人学生が学び、切り拓き、学問的地平を築き上げていった闘争史でもあると思うのです。社会的にデモや活動に参加し、悩みつつ、正義を志向し続けた姿として、著者の数々のエピソードが胸を衝くからです。

それらは、各章の中で平易に身の回りのことから率

直に綴られていて、とても読み易いのです。

「序章」で記されているように、今でのニューヨークやシカゴ空港に戻ってくると、必ず足止めをくらう。

もちろん86年の時のように拘留されないが、それは繰り返されているという。「ブラックリスト」は非公開であり、アメリカの好ましくない外国人をリストアップして警戒し、入国を拒否したり、制限する手段に用いられていて、極めて主観的恣意的ご都合主義で、政治思想上の「自由」とまったく相容れない態度・行為である」と著者。86年時弁護を引き受けた人権擁護委員会の話では、リスト数は、35万3324人、世界146国。日本人は4393人も居たとのこと。

(今はさらに増えているでしょう。)著者のアメリカでの拘留に、リスト提供したはずの日本政府は弱腰で、なにもせず、結局彼を救ったのは、アメリカ人たちだったのです。

「たった一人の挑戦は、一個人をこえて、元々みな外国人だったアメリカ人共通の道義を貫くために、マスコミ、法曹界、民主党の議員たち、そして多くの一般の人々が私をニューヨークの牢獄から首都ワシントンDCの議会公聴会にまで運んだ」と。

時代は、レーガン政権、82年イスラエルのレバノン侵略を大応援し、リビアのカダフィの自宅を米空軍機に爆撃させたのも86年。欧州では、反NATO武装闘争が続き、地下戦争の活発な時です。

日本政府の日本人ブラックリストは膨らんでいて、過去にも活動歴のある人物は米や他でも足止めをくらったり、入国拒否されたり、尾行される話を何度か聞きました。私たちの活動は米政府が名指して非難していたので、そのマイナス名影響を与えてしまったのかもしれない……と、当時ヘラルドトリビューンなどで、「ヤタニ・ケース」を読みつつ、思ったものでした。

第1章以降は、やはり86年に事件が生活に影響を与えながら、アメリカでの学者への道を進んでいく姿、生活の厳しさやチャンス、アメリカの学生に教える授業風景の楽しさがいきいき描かれています。中でもアメリカ史を担当する先生と「原爆投下は正当化される」「原爆投下は正当化されない」という議論をし、学生たちに質人や意見を求める研究法は、興味深かったです。ことに、アメリカと日本の立場を逆にし、矢谷先生が「正当化される」ことを証明しようとし、アメリカ人の先生が「正当化されない」を論証するところで、心理学言うところの「認知不協和」を実感し、読者に心理学講義と、また戦争と戦後を問う形として記されているのも読ませます。そうした学問的な軌跡はまた、

学生運動を共にした世代には共感しうるエピソードが多いのですが、略します。そして第5章で、尊敬する先輩であった藤本敏夫さん逝去の2002年に記した追悼文を採録してこの本を終えています。

この本の記述には、身の回りの教授生活、家族、生き方、考え方から、国家権力、社会政治問題へと、良心に基づいて学生運動の中で培われたであろう価値観を浮かび上がらせます。

私は、69年の「7・6事件」の後から関西に居ることが多くなり、同志社の学館やストライキ中のキャンパスで過ごすことも頻繁でした。そんな折、何度か友人と矢谷さんが話しているのを見かけました。「7・6事件」の衝撃——仲間が仲間を肉体的に傷つけ合ったこと。そしてあんなに真面目でひたむきな望月さんの死。7・6の当日「こんなの革命じゃない!」と悲鳴を挙げながらルビコン河を越えた私。あの日、滂沱の涙で酒を飲み、赤軍派からも活動からも撤退した藤本さん。矢谷さんや奈良平、志賀くんも、もうついていけない領域だと判断されたのでしょうか。あの時「常軌」を逸した学生運動を批判し、または沈黙して去って行った人々の思いは、アラブに行ってから自分の至らなさと共に、恥ずかしく思い出しました。その時には、いつも明大現思研の仲間と同志社の仲間が浮かびました。

著者は当時の学生運動には触れていないけれど、いろいろな思いや苦しみを新しいアメリカ世界に重ねながら、ひたむきに好奇心一杯に闘い続けたことが、本から伺えます。そこには、「挫折」でない明朗さがあります。著者が共に闘った人々の思いを体現しているからこそ、再び日本社会へと招かれ、また、出版をも求められたと思います。11月に母校で講演会を行うのに合わせて、書き下ろされたのがこの本です。かつて学生運動に参加し、今も日本で何らかの形で、その信条を持ち続けて生きている人々とまさに響き合う人生がここにあります。また、若い人々にもアメリカを知るのに、良い本だと読みつつ実感しました。この本を読み、ちょうど砂川伊達判決の土屋源太郎さんとその後の明大学生運動60年を語り合う集いを思い描きました。(12月6日予定)今なら、明大「二・二協定」含めてよくとらえ返せそうです。(11月22日)

『芸能人の帽子』副題『アナログTV時代のタレントと芸能記事』(中山千夏著・講談社)を一気に読みまし

た。読み応えのある内容の上に541ページにわたる大著です。庶民の羨むきらびやかな仕事の中にあつて、「なりたい自分になろう」と必死に考え生き抜いてきた「芸能人中山千夏」をとらえ返した著者中山千夏の鮮やかな総括が際立つ本です。

「第1章前口上」の中で、著者はこんな風に述べています。「子役デビューしてすぐ注目された彼女は、十歳にして自分についての芸能報道の気色悪さを知った。そこに書かれた自分は、自分ではなかったからだ。(中略) その気色悪さを避けるには読まない。読んだら即忘れる、が一番だとすぐ会得した。そのまま大人の芸能人時代をすごした。(中略) 彼女はどんな芸能人だったのか。(中略) とりわけあの時代は、私がかつとも戻りたくない時代として私の中に結晶している。」それを「私の人生のかなり重要な部分」としてとらえ返そうと検証・批判を開始し、「かくして私は古い芸能記事との対面に乗り出したわけだ。そして他人が書いた記事、今の私と当時の私との複眼で見ながら探求し、考えを書いた。「アナログTV時代の一人の売れっ子芸能人と彼女が居た時代とを、いろいろな意味で立体的に描いた読み物になることを目指して書いた」と執筆について記しています。60年代から70年代、学生運動、ベトナム反戦・全共闘運動と共振しながら、「チナチスト」ファンを魅了し、役者、司会、歌手、物書きとブレイクして殺人的スケジュールをこなしていた中山千夏。爆発的人气の中で、当時感じた「居心地の悪さ」や「違和感」をもちまへの知的反射神経と素直さ、度胸で自分らしく貫いている「中山千夏」とその当時とらえ返し、深く分析し、正直に記す真摯な著者の文章は心に響きます。

こんな一節があります。



アナログTV時代のタレントと芸能記事

「何十年の距離を隔てて振り返ってみると、かつて自分のいた場所がよく見える。まず、一番遠く無意識を脱したあたりに、でんとあるのは楽屋だ。私の大部分は楽屋で育った。意識の底は楽屋で形成されたと言っている。そこは世間から隔離された

小さな世界で豊かに雑多な人間がいた。それでいながら見事に一様でもあつた。彼らはみんなまずもって役者だったのだ。君も私も彼も彼女も役者である。そのことの前には、女も男もゲイも子どもも老人も貧乏人も金持ちも東大出も文盲も日本人も被差別部落民も在日朝鮮人も意味がなかった。だから性差別はなかった。年齢差別もなかった。門戸差別もなかった。出身校などは話題にもならなかった。綿密に見れば、差別はあつたろう。しかし後に知った世間に較べれば、無に等しかった。役者の価値観ですべてが決まった。非常識な行為や犯罪に近い放蕩はしばしば不問に付されたが、大根役者は指弾された。唯一の差別は、大根役者差別だろう。映画でもテレビでもドラマを作る場である限り、そこはやはり楽屋世界に似た役者の天下だった。性差別もほかの差別も目に付きはしなかった。

だがワイドショーで関わったテレビ界はまったく違った。ちょっとのちの私は、これぞ男社会との初めての遭遇だった、と横手を打ったものだが、ハタチの千夏にはそれと見て取る術もなく、ただそこでもてはやされながら、原因不明の居心地悪さ、底なしの疎外感といった不快に日々襲われているだけだった。「そこは、いわば高学歴の男たちの職場で、「人事から何から男たちの考えで決まる、性差別を良風美俗と信じて疑わない時代の彼らの中で、女は同僚ではありえない。」うした中で学習し、自分らしく生きようとする千夏の当時の姿を現在の著者がとらえていきます。

ワイドショーや歌番組の司会のそうしたエピソードの中で「よど号『失言』事件」にも触れています。歌番組の司会時に千夏は真剣に命がけで飛行機を乗取った若者や運悪い乗客は生命の危険に瀕しているのに、私たちはちゃらちゃら歌番組やってる。それなら、ちゃらちゃらに徹するか番組中止すればいい、心配した振りして!という欺瞞にムラムラとしたようだ。「今頃、朝鮮料理でも食べてるんじゃないかしら」と発言。クレームがあいつだらしい。

「歌謡番組をしっかりと見ていて、タレントの発言に抗議電話する暇人になんて私が誤らなきゃならないのよ」と当時思った。「今でもそう思う。ただし、今はそれがテレビというものだ、と悟っている」と、書かれています。

学生生活動家たちが千夏を愛したように、千夏も学生運動の心情シンパ。「全学連同様、三派に限らずいろいろな女性タレントを支持する学生たちの派があつたに違いない。ただ自分から学生運動にある種の愛を寄せ、それを公言したアイドルタレントは中山千夏くらいだ

つたのではないだろうか」と著者は記している。

そして、子ども時代のデモに遭遇した共感などを語り、私とのベカー高原での出会いも過分な暖かい眼差しで記し、病状を案じてくれています。

あの学生運動盛んな時代、歌い、演じ、喋り、更に書きながらすべて一流の仕事を通密スケジュールの中でやり抜いていた千夏はやっぱりすごいです。素質を経験の中で磨いた人間としての本質を掘む力は鋭いです。これはあの時代を切り取った時代批評であり、社会心理学や文化人類学の研究論文並みの分析・論証としても読めます。

だからと言って、学級的なものでももちろんなく、それを縦糸として、当時の千夏の現場で起きた数々の真実のエピソード、菊田一夫や青島幸男ら、多くの有名無実の人々との出会いや批判は、とても楽しくまた興味深い。「ひょっこりひょうたん島」と「お荷物小荷物」の制作の場が大いに学んだ楽しい場であつた様子も描かれています。

アラブに出発する前の日本の文化やTVを思い出します。実は私も青島・千夏の昼のワイドショーに出たことがありました。赤軍派の資金稼ぎの一環で当時10万円をもらうために、恥をしのいで「青春とは何か」など意見を述べました。

また、本書に重要な学びの場として出てくる「お荷物小荷物」の脚本家の佐々木守の評価も同感です。守さんは土屋源太郎さんと砂川闘争を闘った明大の先輩でした。飲み屋やお宅や大阪でもいろいろ話をしました。時々ABC本社前のプラザホテルにカンパを取りに行つてレストランで千夏たち役者と居合せたこともありました。私はもちろん無名で名乗りもせず、千夏たちが熱心に議論していたのを観察していただけで

すが、様々なエピソードも、また教訓に満ちていて、著者は自分の感じ方、考え方を掘り下げながら自分らしくたゆまず進んだのですね。

今は文筆業を中心に望まれれば講演や反差別、反原発などの闘いも地道に続けている姿に感慨と敬意を深めながら読み終えました。

本書は「芸能人だった」時代に区切って分析し論じているものですが、他の著書も是非読んでみたいと思いました。「なりたい自分になる」と決心し、違和感、居心地の悪さを乗り越えながら自らに忠実に生きた人間ドキュメントとして、そこにある葛藤、超克を学ぶことができます。私たち自身を振り返る意味でも、また若い人にはどんな文化、時代だったかを知ることができ、よく価値があります。面白いので、541ページというのを感じさせない一冊です。(12月20日)

126号の誤植の訂正とお詫び

- 3頁1行 ~7月10日→~7月2日
- 4頁左列5月14日7行 立憲主義化→立憲主義
- 5頁右列5月19日16行 再開→再会
- 5頁右列5月20日8行 は、なかみ詠→、はなかみ詠
- 8頁左列6月3日3行 ハマスの→ハマスに
- 9頁右列6月11日下から2行 門間→門真
- 10頁左列下から15行 議会を→議会を説得して
- 11頁左列15行 ありかいた→アルカイダ
- 12頁左列6月16日下から4行 五原則→三原則
- 12頁右列6月19日下から8行 ひとえ トル
- 13頁左列6月20日5行 講義→抗議
- 13頁右列6月20日下から16行 再開→再会
- 15頁左列6月30日10行 来年の トル
- 15頁右列7月2日3行 GV→CV

伊達判決が出て

米軍駐留は憲法9条違反ということで無罪となった

文字起し: YK

表として活動され、砂川事件最高裁判決無効を求める闘いを中心となって担っています。

今回の集まりは、土屋さんの闘いを支援するとともに、1953年に明大学生運動が始まって以降、60年の歳月を振り返るという趣旨で開催されたものです。

土屋さんの講話

今晚は、こんなに仰々しいことで、私も少々照れているんですけども、昔の話も少しいろいろして、皆

12月6日午後6時より、明大紫紺館(旧小川町校舎)で「土屋源太郎さんを支援する集い」が開かれました。

土屋さんは1953年に明治大学に入学され、明大中執委員長、都学連委員長、全学連書記長を歴任されました。1957年、の砂川闘争で逮捕され、「伊達判決」で無罪になりましたが、その後の最高裁で差し戻しとなり、差し戻し裁判で有罪となりました。

土屋さんは現在、「伊達判決を生かす会」の共同代

さんも知らないことも話をしようと思っています。ただ、多少ボケもきているので、時間的問題などちょっと違うかもしれません。

私が明治大学に入学したのが1953年です。ですからここにいる皆さんよりも10年あるいは10年以上前です。当時の明治大学は皆さん想像できないかもしれないが、ひどかったんだ。例えば生田(註:理工・農学部のキャンパス)の学生が小田急線の中でションベンしちゃったとか、体育会の合宿所で、出前を運んで来た女の子を暴行しちゃったとか、暴力団系の学生が結構いて、そいつらがパーティー券を暴力的に脅かして売りつける、とにかく新聞の三面記事に明治大学がものすごく載ったんです。

その背景としては、当時の明治大学は残念ながら教育というよりは学校経営が中心で、いかに儲けるのかということだった。理事とか評議員の中に、暴力系や右翼系の人間が結構いた。その連中が支配していたために、良心的な教授などが排除されて発言できないという状況が現実にあった。1952年に、商学部がそれに反対してストライキやるということになって、それがきっかけで学内浄化運動が始まったんだけど、理事会側がのりくらりで、入学時には不正入学、大教室に詰め込みですよ。それから教授がアルバイトをするので休講を平気でしてしまう。それから教科書は使い回し、少し内容を変えて、毎年それを買わせる。買わないと試験に通らない、そういう状態だった。

学生会はあったが、学生会としての自治の機能が働いていない、法学部、商学部、政経学部という中心学部が、ほとんど学校寄りで、中央執行委員会が学校側とボス交をやっている、そういう状況だった。

そういう状況の中で、このままにしておけないという声があがって、1953年の6月に学生大会があり、不正入学反対とか理事会・評議委員会を変えろとか12項目の要求を出すと同時に、そういう学園民主化運動をする以上は他の大学との連携も必要だということで全学連加盟が可決された。全学連は国立大が中心だったが、明治が加盟するということが、私学が結構加盟した。

学生大会で、12項目について回答しなければ全学ストに入るという決議がされ、僕もクラスの闘争委員に参加した。僕が学生運動に関わる最初だった。4月1日の全学ストはうまくいった。それに対して暴力学生が暴力を振るうということがあったが、最終的に教授会が仲介案を出して、それを理事会が飲むということでストが中止された。

それと併せて保守的だった学生会が崩壊するという状況になって、学生中心の自治活動に変えるということになった。僕は1年生だったが、法学部の執行部改選の時に事務局長になった。明治の場合は、そういう経緯があったから自治会という名前が使えなかった。学生会だった。だから書記長ではなくて事務局長。そういう状況で中執も変わっていく、全学連に加盟することによって明治も非常に大きく運動自身が変わっていくきっかけになった。全学連加盟によって全学連の中央委員にもなって、外ともいろんな関係ができる。その年の12月に共産党に入党した。共産党に入党して分かったことは、全学連の中央執行委員はほとんど共産党員という状況で、共産党の影響力がものすごくあったことだ。

54年くらいから、共産党内部の分裂からいろいろ問題があつて、55年の六全協が出る前で、共産党としても今までの極左冒険主義に対する批判が出て来て、学生運動そのものも政治主義ではなくて、学内のより良き学生生活、これをテーマにした運動になっていった。当時は歌って踊って平和というおかしな状況になるが、一方で原水爆禁止の運動が始まる、そういう状況で54年に明治で全学連の平和集会をやった。ただし、これは歌って踊ってが中心。54年から55年の初期には、原水爆禁止の運度や原爆実験への抗議行動に明治から大量の学生が参加した。その背景にはサークル活動が基本にある。社研とか論潮とか民主主義団体協議会のサークルが非常に強かった。それと法学部、文学部、経営学部が中心になって運動を進めていた。商学部、政経学部、農学部は学生運動は学内に絞るべきという依然として保守的な傾向があった。そのため、学生大会になると、全学連加盟によって運動が政治的になりすぎるという問題が出されたが、我々としては当然、政治的な課題に取り組んでいかないと学生運動も学生生活そのものも守って行けないという主張をした。54年の秋に中執の事務局長になり、55年の秋に中央執行委員長になった。

当時、共産党の影響力は非常にありましたから、中執委員長になった時に、僕は共産党の明大細胞のキャップをやっていました。千代田区の地区委員会の学対責任者でもあった。

しかし、党の間ではいろいろな問題があつて、絶えず矛盾を感じていたというのが実態です。ですから、55年の砂川闘争は全学連は全然関わっていないです。そういう方針でいたから、鈍かったんです。その一方、原水爆反対運動では街頭で激しい蛇行デモなどやるん

オリーブの樹 第27号

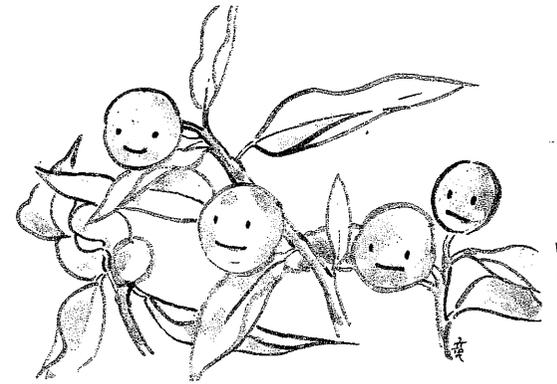
ですが、砂川闘争には参加しなかった。ただ、明治大学というのは、当時、蛇行デモをやると頭か尻尾なんです。そういうつらいところを引き受ける。当時の明大の学生運動は周りからも信頼されていたし、力も付いてきた。

55年の砂川闘争は、立川の米軍飛行場を原爆を搭載した飛行機が離着陸できるように拡張するための土地収用が決定されて、それに反対する地元農民が中心となって反対運動を展開した。55年闘争の時に、警官による暴行や反対運動に対する切り崩しがあつて、反対同盟の中の動揺が広がった。そういう状況を受けて、反対同盟の中から、この際、全学連にも支援を要請する必要があるということで、56年の春に全学連に要請があつた。

たまたま56年に全学連の体制が変わるんです。55年末から56年にかけて全学連の体質改善が進んできて、香山などが中執委員にいて僕が中央委員でいた。そういう中で砂川闘争が始まった。我々は55年に闘争に参加しなかったことを非常に反省して、56年の闘争に取り組んだ。

明治でもクラス討議や、いろんなところで討議を重ねて行って支援した。大変な動員力があつた。56年は僕が明大の中央執行委員長だったので、闘争にずっと取り組んで行った。56年の闘争は千人からの流血があつたが、最終的に測量中止に追い込むということで勝利した。56年の闘争が10月にあつたが、その秋から全学連内部の抗争が始まる。全学連が砂川闘争で新聞とかいろんなところに出る、地元や総評から評価を受けるということで、全学連内部から『砂川闘争は総評の手のひらで踊らされた』という批判が出て来て、それに対して党中央が、どちらかという批判する側に肩入れしてきた。そういう抗争があつて、何とか改選しなくてはいけないということで、57年1月に僕が都学連委員長になった。56年は明大全体の闘争と、全学連中央委員として現場闘争に関わったが、57年は都学連委員長として現場指揮の責任を執る形で闘うことになった。

57年は基地内の土地の強制収用なので、基地内に入って抗議行動するというのを基本方針として持っていた。前の晩の戦術会議で総評から『明日は中に入りませんよね、強行突破しませんね。』と言われていたんだけど、『できるだけ状況を見ながら慎重にやります』と答えながら、実際には夜中から工作部隊を出して、柵がすぐに倒れるように作業して、当日、突っ込んだ。



我々が突っこめば、スクラムを組んでいるので、皆そのまま突っ込むだろうということで、案の定、皆突っ込んだ。後で考えれば、学生は身軽でいいが、起訴された労働者は首になつたり大変な思いをした訳です。入ったことによって、1月の時点では抗を打つこともできずに、双方別れた。ところが9月になって逮捕されるという状況になった。57年に起訴されて、59年の3月30日に伊達判決が出て、米軍駐留は憲法9条違反という事で無罪となった。ただ、裁判は憲法裁判ということで、法廷ではアジテーションをやるようなことをやってきたんですが、正直、被告としては非常に大変な時期でした。何故かと言うと、57年58年というのは全学連にとっても大変な時期だったし、明治も大変だった。

僕が都学連委員長に出てくという状況の隙を突いて、右翼系の連中を中心とした連中に中執が乗っ取られた。商学部、政経学部、農学部、工学部そして経営学部の一部が結託した。このままでいいたら、全学連へ加盟しないとか、学内闘争が否定される状況になってくる。そこで学生大会で、会計の使い込み問題があり、それをネタにして罷免決議をしたら、執行部が全員総辞職した。本来は中執で委員長など執行部を決めるのに、その場で決めた。それに対して体育会や応援団が記念館に座り込みをするなど妨害をして、学生大会が開けない。一方で、全学連と共産党との間の抗争が始まる。58年6月に全国学生党員代表者会議が代々木の党中央で開かれて、僕が議長になって進行をするのを党中央が認める認めないで、グチャグチャになって、最終的に我々が会議を乗っ取った形になった。共産党中央執行委員の罷免決議までやった。それで僕は査問会議にかけられたりして、最終的に除名された。

当時の共産党がおかしかったのは、例えば原水爆実験に対して、アメリカの原水爆実験は汚い、けしからん、ところがソ連の実験は綺麗な実験だと言う。馬鹿

言うな、原水爆実験に綺麗も汚いもあるか、そんなことも含めているような政治課題で対立し、全学連大会においては、特に教育大学や早稲田の一部の妨害によって揉めにもめた。そういう状況があったものですから、どちらかというところちに精力を取られていた。

59年の3月30日に伊達判決が出る。伊達裁判長が主文で無罪と言った時は、本当に頭の中が真っ白になった。それから理由について述べて読んで行くうちに『すごい。こんな裁判長がいるのか』と思った。しかし、最高裁に跳躍上告になって、12月16日に一審判決破棄・差し戻しの判決が出て、差し戻しの裁判で二千万円の罰金になる。それで、砂川裁判は一応のケリがつけられた。57年58年のいろいろな動きがあって、57年暮れに革共同ができる、58年にはブントができる。本来、ブントも革共同と一緒に運動をすればよかった。ところが、つまらないことで対立した。それが60年安保闘争にも影響したし、全学連が分解していく要因を作り出した。この辺が現在にもつながる教訓があると思う。

最高裁の裁判において、当時のアメリカ大使から日本の外務大臣に対して強力な働きかけがあり、当時の最高裁長官がアメリカ大使に会って裁判内容などについて3回に渡って会って話をしている。

このことが2008年に明らかになったために、この伊達判決をもう1度蘇らせて多くの人に知ってもらいたいということで、当時の全学連や明大の多くの仲間と呼びかけて「伊達判決を生かす会」を結成した。それで日本側の情報公開請求もやったが、情報はほとんど出て来ない。この問題に対する闘いが組めないか、

弁護士の先生と相談した結果、当時の最高裁長官の行為が、裁判の公正を欠く行為であり、憲法37条に明らかに反しているので再審請求をやろうということになった。それで、今年の6月17日に再審請求を行った。安倍政権が集団的自衛権を行使するにあたって、砂川裁判の最高裁判決で集団的自衛権を認めているということを引用している。これは全くインチキな話で、それがあったものですから、何とか国会開会中に間に合わせて請求を行った。

17日の日に、もしかしたら地裁が再審請求を受け取らないのではないかと思ったが、受け取った。裁判長から12月1日付で検察側に意見を申し立てろと言ってきています。2日を過ぎて何もなかったので裁判所に問い合わせたところ、11月初めに検察からの意見が出ていた。内容はまだ見ていないが、それを基に今後の運動にどう取り組むか決めて行く。もしかすると年末までに裁判所が決定を出すかもしれない。

皆さんにいろんな形で感心を持ってもらいたいし、署名簿も持ってきているので、署名していない方は是非署名をよろしく願いたい。

註：伊達判決——1957年に東京都砂川町の米軍基地内に無断で立ち入ったとして、刑事特別法違反の罪に問われた土屋ら7人全員に、米軍基地が憲法9条に違反するとして、伊達秋雄裁判長が無罪を言い渡した一審判決。検察側の跳躍上告を受けた最高裁は「日米安保条約は高度な政治性を有し」ていることから、司法審査の対象外として地裁に差し戻し、土屋らは罰金2000円の刑を受けた。(東京新聞：2013.11.10)

後記

完全な人間なんて居ない。それなのに、何かあると、他人を批判して、自分を正当化する人が多すぎるように思う。そして増えているように思う。そういう人は、まず自分が客観的に見えていけない。たとえ、苦しい体験があったとしても、感情の流れに流されてしまうから、冷静に自分を捕らえられなくなるのだろう。自分をとらえ返せる心をやしないたい。

新年早々、フランスで殺人騒ぎがあったが、このところ日本でも、親子の間で殺人事件が報道されたし、中東の「イスラム国」やイスラエルのパレスチナ弾圧、アフリカでの誘拐事件、その他いろいろと枚挙に暇が無い。「憎しみや報復からは決してその間に存在する問題を解決することはできない。軍事も然り。ネルソン・マンデラ氏が黒人が長い間弾圧されたにも関わらず、白人への報復ではなく、白人を「許す」と和平に成功したように、近くは、銃撃されながら、死をいとわず子供の教育問題の解決に身を挺するマララさんのように、力でなく広い心で信念を持って生きる人たちが人間の進むべき道を明白に示しているように思う。

残念なことに、この方向に逆らって、憲法を変え、力で抑えようとする輩に日本の政治は握られてしまっている。あきらめは彼らを助けてしまう。今年こそは、自分を変えて前に進もう！共に！ Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 127 号

- ①2P16行目 ガザの万を超す負傷者→～万を超す死傷者
- ②2P19行～20行目 ハラムテルシャリーフ→ハラムアルシャリーフ
- ③3P下から13行～12行目 「人権差別主義」→「人種差別主義」
- ④3P下から10行目 「沖縄」や「脱原発」。→「沖縄」や「脱原発」、
- ⑤4P(短歌)4行目 逝さし友野顔→逝さし友の顔
- ⑥5P(11/13)左下から2行目 香りが漂い→香が焚かれ漂い
- ⑦6P(11/18)左下から6行目 西浦婦人→西浦夫人
- ⑧8P(12/1)左下から3行目 版画見たいです。→版画みたいです。
- ⑨10P(12/10)左下から1行目 追い込みらしく、伝カ一が→宣伝カ一が
- ⑩11P(12/16)左上から3行目 行きを楽しむ→雪を楽しむ
- ⑪12P(12/22)右4行～5行目 ロースとレッグ→ローストレッグ
- ⑫13P(12/25)左下から8行目 作夜のクリスマスイブ→昨夜の
- ⑬14P(読んだ本)右上から2行目 だ1章→第1章
- ⑭14P右下から6行目 一人尾日本人学生→一人の日本人学生
- ⑮15P左上から2行目 今でのニューヨーク→今でもニューヨーク
- ⑯15P左上から10行目 ～為である」と著者。→～為であると著者。
- ⑰15P左下から16行目 マイナス名影響→マイナスな影響
- ⑱15P左下から13行目 86年に事件が→86年の事件が
- ⑲15P左下から7行目 ～たちに質入や→～たちに質問や
- ⑳16P左下から5行目 ～や「違和感を」→や「違和感」を
- (21)16P右下から21行目 うした中で学習し→こうした中で学習し
- (22)16P右下から11行目 クレームがあいつだらしい
→クレームがあいついだらしい
- (23)16P右下から9行目 ～なんで私が誤まらなきや→～謝まらなきや
- (24)17P上から12行目 学級的→学究的
- (25)17P上から1行目 すが、様々なエピソード→～すが、様々なエピソード
- (26)17P上から14行目 よく価値が→読む価値が
- (27)17P(右欄囲み) 126号の誤植の訂正とお詫び→124号の誤植訂正
- (28)18P左下から12行目 ～要求を出すと同時に。→要求を出すと同時に、

- (29) 18P左下から12行目 ~要求を出すと同時に。→要求を出すと同時に、
(30) 19P下から15行 ~使い込み間断があり→使い込み問題があり
(31) 20P右上から18行 感心を持ってもらいたい。→関心を持って~